

実 施 記 録

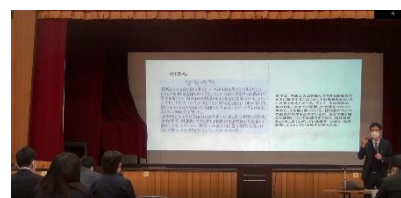


- 1 日 時 令和2年12月5日(土) 13:30~14:20
- 2 対 象 広島県内の中学校数学科教師 18名
- 3 授業者 玉置 翔大 先生(庄原市立庄原中学校)
- 4 単元名 データの活用
- 5 本時の目標 広島県は都会か、箱ひげ図をもとにして批判的に考察することができる。

学習活動と内容	指導上の留意点(◆評価)
<p>〔問い〕 広島県 は 都会 か？</p> <p>1. 都会とは何かを確認する。 ・人口が多い ・人口密度が高い ・お店が多い ・高いビルがある等</p> <p>人口や人口密度で考えて、広島県は都会か？</p> <p>2. 市町村別人口・人口密度の表を見る。 ・広島市の人口を見て都会 ・人口密度の少ない市町が多いので都会でない ・他の都道府県のデータも見たい ・広島市と京都市を比べて都会でない</p> <p>3. 都会の基準を定める。 ・最大値 ・最小値 ・中央値 ・平均値 ・10万人都市の数 ・1000人/km²都市の数 ・過疎化している都市の数 ・範囲 ・グラフにしたい(視覚化したい)</p> <p>箱ひげ図から考えて、広島県は都会か？</p> <p>4. 広島県は都会か分析する。 ・人口の箱の位置から京都府より広島県 ・人口密度の最大値や箱の位置から京都府 ・中央値から静岡県</p> <p>5. 広島県は都会であるか、考えをまとめる。</p>	<p>○自由に意見を述べさせる。 ○今回は人口や人口密度に着目することをおさえる。 ○京都府や静岡県は都会かも問いかける。</p> <p>○広島県のプリントを配付する。 ○多様なアイデアについて、表のどこに注目しているかの視点を取りあげる。 ○京都府と静岡県のプリントを配付する。 ○ワークシートを配付し都会の基準を書かせる。 ○表の注目したところに印をつけさせる。 ○「最小値が大きい」のように統計用語でおさえる。 ○ヒストグラムを提示して、箱ひげ図の有用性を確認する。 ○箱ひげ図で分析することをおさえる。</p> <p>○箱ひげ図〔3府県〕のプリントを配付する。 ○自由に意見を述べさせる。 ○箱の位置や狭さ、中央値に注目させる。 【C生徒への対応】2府県で比較するように呼びかける。 ◆人口の箱ひげ図をもとにした自分の考えが書けているか。 【思考・判断・表現】</p>

〔協議会〕(14:30~16:45) 1. はじめに(佐伯 陽 先生) 2. 授業者から 3. 授業協議

4. 授業のまとめ(廿日市市教育委員会指導主事 岡寺 裕史 先生)
5. 講演「数学的活動の充実を目指した指導と評価」
(山梨大学 清水 宏幸 先生)
6. おわりに(広島県数学会会長 田中 祐二 先生)
7. 諸連絡(東雲中学校 天野秀樹)



〔参加者(敬称略)43名〕清水 宏幸(山梨大学)

- 田中 祐二(広島県数学会会長・大柿中学校長)
 岡寺 裕史(廿日市市教育委員会学校教育課長)
 金本 旭史(廿日市市教育委員会指導主事)
 吉田 修久(広島市教育委員会指導主事)
 原田 康宏(広島市立安佐中学校)
 橋本(附属中・高) 青谷(附属中・高)
 岩知道(附属中・高) 玉置(庄原市立庄原中)
 奥田(福山市立加茂中) 中江(福山市立神辺中)
 盛本(東広島市立磯松中) 小笹(東広島市立志和中)
 北村(尾道市立久保中) 高橋(尾道市立日比崎中)
 秋枝(広島市立矢野中) 山口(広島市立安西中)

佐伯 陽(前広島都市学園大学)

- 手賀 剛(広島市数学会会長・早稲田中学校長)
 田村 有樹子(廿日市市教育委員会指導主事)
 西森 千博(三次市教育委員会指導主事)
 池田 誠(三次市立三次中学校長)
 田頭 かおり(広島市立中広中学校指導教諭)
 將基面(附属中・高) 森脇(附属中・高)
 井丸(三次市立川地中教頭) 河内(広島市立楠那中教頭)
 世良(福山市立新市中央中) 稲葉(府中市立第一中)
 濱田(尾道市立久保中) 和田(安芸高田市立八千代中)
 鳥淵(尾道市立日比崎中) 川口(広島市立五日市中)
 水元(広島市立観音中) 馬場(広島市立瀬野川中)
 ほか 教育関係者・本校教員